



MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2015年6月号 今年の夏も熱くなれ！



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



「さあ、キャンプへ行こう」

熊谷 大樹（岩手県立産業短期大学校 生産技術科1年）

夏といえば、皆さんは何を思うでしょうか？私は、YMCAの海のキャンプを思い出します。

私は小学生の時、さえない日々を送るばかりが日常でした。しかし、ある日、YMCAの海のキャンプの広告を見たのです。その時の私は、日帰りの野外活動にしか参加したことがありませんでした。広告の「海」や「キャンプ」という言葉には魅力を感じましたが、みんなで泊まるキャンプには少し不安もありました。どうしようかと考えていた時、ハマちゃんが「一緒に行こうぜ、楽しいぞ！」と声をかけてくれました。そのおかげで、私はキャンプに行くことを決心したのです。

海のキャンプ当日、私たちは気仙沼のキャンプ場へとたどり着きました。私はその時、表で楽しく騒いでいるみんなとは裏腹に、不安な気持ちになっていました。キャンプでは、電気もなく、ごはんも自分たちで用意しなければなりません。大丈夫かな…という気持ちでいっぱいでした。

夕飯づくりの時間になり、私は火おこしの当番になりました。どうしたらいいのかな…とっていると、ねぎというリーダー

が、「みんなと一緒に頑張るぞ！」と言いました。この時、私は心を打たれました。一人で作業するのではなく、みんなで一緒にごはんをつくるということに、私は感動したのです。

みんなと協力して作業していくうちに、ごはんができました。そして、みんなと一緒に食べ始めた時、私は温かいものを感じました。

次の日、海に行く時には、すっかり仲良くなったみんなと一緒に泳いで楽しみました。寝る時も、みんなと話をしながら、楽しいひとときを過ごすことができました。そして、キャンプから家に帰って来た時、私は、このキャンプに来ることができてよかったと思ったのです。

優しいリーダーと美しい自然、頼もしい仲間と出会えたYMCAのキャンプに、私は心から感謝しています。さあ、次のキャンプに行くのはあなたです！



サマーキャンプ～今年の夏も熱くなれ！～

YMCAの夏といえば、キャンプです！毎年たくさんの思い出が生まれる夏のキャンプが、今年も行われます。

日本でのYMCAのキャンプは、1920年の夏に神戸の六甲山にて誕生しました。これは、日本で初めてのキャンプでした。以来YMCAは、多くの青少年が、精神・知性・身体・社会性のバランスの取れた人となることを願い、様々なプログラムを提供してきました。

YMCAは、キャンプを行うにあたり、以下の7つの目的を掲げています。

1. 自然生活を楽しみ、自然に適応する能力を身につける。
2. 良い習慣を育て実践する。
3. 健康のための知識を得て、自分の身体を守る方法を知る。
4. 生活を豊かにする技術を学び、創造力を育む。
5. 良き友人を作る方法を学び、互いの存在と生命を尊重する心を育む。
6. 民主的なグループ経験から、社会に関わる責任感を育む。
7. 神の恵みを知り、感謝の気持ちを養う。

それぞれの時代や社会状況と共に、プログラムの形態は変化してきましたが、90年を経た今も、変わらないことがあります。それは人間の持っている欲求『認められたい、認めたい』に応じることです。私たちは、青少年に関わり合い、その大切さを共に学び、育み続けてきました。『自分を生かし、活かされている、受け入れられている』という情緒の安定を基盤にして、【生きる力】を育んでいきたいと願っています。

盛岡YMCAは、今年度、盛岡近辺の子どもたち向けに「わんぱくキャンプ」「サッカーキャンプ」「タイムスリップキャンプ」「森の大自然満喫キャンプ」「田沢湖わくわくキャンプ」を行います。また、宮古市の子どもたち向けに「おもいっきりサマーキャンプ」を行います。

今年の盛岡YMCAサマーキャンプのスローガンは、「今年の夏も熱くなれ！」です！このスローガンは、つづ貝リーダーこと小野寺百恵さん（盛岡大学児童教育学科4年）のアイデアをベースに作られました。

YMCAのキャンプでは、今までたくさんのドラマが生まれてきました。今年もきっと、さらに熱いドラマが生まれるはずですよ。たくさんの参加者のみなさんと熱い思い出を共有できるよう、スタッフ・リーダー一同頑張ってます。



← 昨年度の湖畔のキャンプより。広い湖をみんなで満喫しました。



← ドキドキのまき割り体験！普段できない経験を味わえるのも、キャンプの大きな魅力のひとつです。

キャンプによせて～子どもたちの痛みを共有する～

—未来への探求 生命への賛歌—

わたしたちは知っています 人に会い
人と分かち合い 人に生まれ 人を愛する喜びを
わたしたちは伝えます 人と共にあり
自然と共にあり 世界と共にあることを
わたしたちは約束します いのちにもやさしい
平和を求める 新しい生き方を
わたしたちは感謝します
人に愛されていることを
地球に生かされていることを
そして神が共にいることを

これは、阪神淡路大震災（1995年）に、日本の組織キャンプ発祥の地六甲山で開催されたキャンプ75周年記念フォーラムで採択されたメッセージです。震災の傷跡の癒えないただ中で、人と、自然と、世界と共にある、未来へと続くわれわれの生命（いのち）が賛歌され、キャンプの意義が再確認されました。

東日本大震災直後、ある避難場所で行われたレクリエーション・プログラム中に、突然、一人の子どもが家族を失ったことを話し出しました。私は一瞬ハッとして、話題を変えて気持ちをそらせるのがよいのか、そのまま話を聞くのがよいのか悩んでしまいました。

今、子どもたちは生活基盤である家がない、仕事がないという状況で大きな不安を感じている家族の気持ちを、敏感に感じ取っています。そして「がんばっている姿を見せて、まわりの人を安

心させよう」と、多くのことを我慢しています。

本来、子ども時代には、その時々に応じて「悲しい」とか「うれしい」という気持ちを持つこと、そして、悲しい時、つらい時に思いっきり泣き、楽しい時に心から笑うことが自然であり、必要です。その時に、一緒に楽しんでくれたり、笑ってくれたりする人がいることで、一人ではないと安心したり、未来に希望を持つことができるのだと思います。それは、子どもたちの将来にわたる生き方の礎、人格の形成にも大きな意味を持ちます。

私たちに、いま、子どもたちに寄り添い、つながって、喜びや感動、そして時には痛みや悲しみをも共有することが、求められているのではないのでしょうか。心に痛みを持ち、悩み、希望が見いだせず小さくされた人々、すなわち「憂えている人」のそばにそっと寄り添うことを意味する「優しさ」が必要であり、この「優しさ」を確実に届け続けることが私たちの使命ではないかと信じます。

私たちYMCAが大切にしている「キャンプ」には、多くの可能性と喜びがあり、大きな価値を生み出すものであります。キャンプで「人は変えられます」。この夏、全国のYMCAでは被災地の子どもたちやそのご家族をキャンプに迎えます。私たちは研鑽を重ねつつ、3年、5年、10年とかかわり続けることを通して、共に歩みたいと願います。

（京都YMCA総主事・日本キャンプ協会常務理事 神崎清一氏
THE YMCA 2011年7・8月号より）

リーダーたちが語る、キャンプ！

YMCAのキャンプは毎年ワクワクドキドキの連続です！その魅力を、リーダー達が語ってくれました。



参加者全員で作るワクワク感！！

盛岡大学社会文化学科3年
東海林俊一（ますおリーダー）



ずっとみんなと一緒に！！
最高の夏をみんなで作ろう！！

盛岡大学児童教育学科3年
安久津里彩（あさりリーダー）



夏を詰め込んだ感じです！とっても
キラキラした思い出になります！

盛岡大学児童教育学科4年
小野寺百恵（つぶ貝リーダー）



自然とたくさん触れ合って、誰よりも
夏を思い切り楽しめる☆

盛岡大学児童教育学科4年
嶋崎恭子（ハードルリーダー）



夏のキャンプは、友達やリーダーと
一緒に活動できる時間が長くなる！
仲も深まって、とっても楽しい時間！

盛岡大学児童教育学科2年
浜田真美（モモンガリーダー）



毎年夏はワクワクドキドキ！
初めてのメンバー、初めてのハプ
ニング、初めての笑顔！
初めての出会いがたくさんあるの
が、YMCAの夏のキャンプ！

盛岡大学児童教育学科4年
向平悟（Gパンリーダー）



自然と出会い、仲間と出会い…素敵
なキャンプをみんなで作ろう☆
主役は君だ！楽しい思い出が盛りだ
くさん！夏と思ったらYMCAの夏の
キャンプだ～！

岩手大学教育学部4年
武田悠（ゴリナリーダー）

☆2015年度盛岡YMCAキャンプ☆

盛岡近辺対象:

7/19～7/20 わんぱくキャンプ(つどの森)
8/1～8/4 サッカーキャンプ(いこいの村)
8/6～8/7 タイムスリップキャンプ(御所野縄文公園)
8/8～8/9 森の大自然満喫キャンプ(外山森林公園)
8/10～8/12 田沢湖わくわくキャンプ(思い出の湯分校)

宮古市対象:

8/4～8/6 おもいきりサマーキャンプ(思い出の湯分校)

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 6月報告書

宮古ボランティアセンターの活動も、新体制となってから2か月目を迎えました。

① 旧宮古ボランティアセンター解体

宮古市大通にあった旧宮古ボランティアセンターは、5月15日をもって解体されました。解体された建物は、宮古市鉾ヶ崎の「七滝湯」さんにて、事務所として再利用されます。

② 5/10(日) 宮古アドベンチャー

5月のアドベンチャーの活動は、宮古市野外活動センターで行われました。

今回の活動は、餅つき！ 12名の小学生が参加してくれました。また、岩手大学から5名、盛岡大学から3名、東京海洋大学から2名の学生がボランティアリーダーとして参加してくれました。いつも宮古ボランティアセンターの活動を支援してくださる「おじちゃん・おばちゃんリーダー」も活躍してくださいました。

2年生の頃から毎年活動に参加してくれていた女の子は、今年で6年生になったそうです。今回の活動では、彼女は、低学年の子どもたちの面倒をさりげなく見ていてくれました。まるで大学生のボランティアリーダーのような行動には、ただ、びっくりです。

③5/17(日) サクラマスサミット

区界高原ウォーキングセンターにて行われた、東京海洋大学・開伊川大学校主催の「サクラマスサミット」というイベントに参

加してきました。

水質汚染やダム建設などのため、サクラマスの数は全国的に減少しています。しかし、岩手にはサクラマスが遡上するきれいな源流が数多く残されているのだそうです。サクラマスにとっては、岩手の源流は数少ない楽園ともいえるのです。そんな源流を目指して、沢登りを行いました。

サクラマスが遡上する「開伊川」は、何十年も前に北上山地の山々に積もった雪から生まれます。その雪が溶け、地中でろ過され、染み出てきた水が、やがてきれいな川となるのだそうです。



サクラマスのサミットで、沢登りの様子です。源流の水は澄んできて、実際に飲むこともできます。

大通りにあった、旧宮古ボランティアセンターの解体時の写真です。



6月の予定

★6月13日(土)
6月森のようちえん
「焚き木でパン作り♪
おりょうりキッズ☆」
(於：つどいの森)

★6月13日(土)・14日(日)・
20日(土)・21日(日)
かもめの玉子セーラーカップ

★6月21日(日)
6月サンデースクール
「うどん作り」
(於：プラザおでって)

★6月27日(土)～28日(日)
6月アドベンチャークラブ
「テントに泊まろう♪」
(於：県民の森)

Facebook、やっています！

盛岡YMCAでは、Facebookページをやっています。毎日の活動の様子や、ボランティアセンターから見た被災地の様子など、ほぼ毎日更新中です！

盛岡YMCAのFacebookページのURLは、以下の通りです。

<https://www.facebook.com/moriokaymca>

たくさんの「いいね！」お待ちしております！



表紙の写真から



気仙沼での海のキャンプにて、楽しさ溢れる一枚です！この写真に写っている彼女たちも、もう大学生になりました。

キャンプの思い出は、いつまでもキラキラ輝き続けています。



君でいいんだよ

～JUST THE WAY “YOU”ARE⑫～

「二度、三度」



古本屋で懐かしい本を見つけた。20年前にブームになった「ソフィーの世界」である。14歳の少女ソフィーがある日1通の手紙をきっかけに先達の知恵に触れ、改めて自分自身を見つめ直すというストーリーだ。しかし、600ページを超える分量に圧倒さ

れ、途中で投げ出し処分してしまっていた。当時の定価は2,500円。それが200円というのだからお買い得だ。再度、挑戦してみようと購入した。

家に帰って開いてみると1枚の紙片が挟まれていた。ここらへんが本のストーリーと若干シンクロして、どきどきする。開いてみるとこう書いてあった。

“ソフィーの世界”一度ではわからない。二度、三度読んでみて。高校に入ってから

も読んでね。
母方の祖母より H7.9.11

おばあちゃんは、おそらく高校受験を控え忙しくしている孫に、ゆっくりとしかも二度三度くりかえし本を読んで行く中で初めて見えてくるものがあるということ、そ

してかけがえない本との出会いは、人の人生に大きな影響を与えるんだということ

を伝えたかったのだろう。「読書は、書物の中に自分の生き方にかかわる何かを求め

る行為である。」

「読書についてやすだけの時間を考えるために費やす必要がある。」

という賢者の言葉もある。

この本を贈られたお孫さんは、おそらく今35歳くらいになっているだろうか？ちょうど、YMCAのプログラムに参加している子どもたちのお父さん、お母さんの世代だ。学童保育や、野外活動、サッカーや水泳に元気に通う子どもたちがやがてむかえるであろう思春期。受験勉強や、部活、ラインの上でのお付き合い、今の子どもたちは多忙だ。そのような中でも流されずに立ち止まり、自己とがっぷり四つに組んで格闘してもらいたいものだ。そして紋々とするその背中をこのおばあちゃんのようにそっと押してあげられるような盛岡YMCAになっていきたい。

「主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。」 (ルカ10章4 1節)

盛岡YMCA総主事 濱塚有史

新スタッフ紹介☆その1！

新年度、盛岡YMCAには新たなスタッフが仲間入りしました。今月号より、毎月一人ずつ、新スタッフを紹介していきます。一番手は、本町センター新スタッフ、「ソニック」こと中村圭一さんです！



- ①名前：中村 圭一 (なかむら けいいち)
- ②リーダー名：ソニック
- ③出身：岩手県盛岡市
- ④好きなこと：テニス・音楽鑑賞
- ⑤みなさんへ：

ソニックです。今年からスタッフになりました。ゲームキャラクターの「ソニック」が好きなので、リーダーネームがソニックになりました。

テニスをやっていたこともあり、身体を動かすことが好きなので、大好きな子ども

たちといっぱい遊びたいと思います。水泳とサッカーもやらせていただいているので、みんなと楽しんでいきたいと思

います。よろしくお願ひいたします。

ソニックリーダーは、本町センターの学童保育と、月曜・火曜・金曜の水泳教室、土曜の本町サッカースクールで活躍しています。

子どもたちのことが大好きで、子どもたちと毎日パワフルに活動してくれてい

ます。今年度から、どうぞよろしくお願ひいたします！

来月号は、向中野センターより、新しいスタッフを紹介いたします。

●国際協力募金

日本基督教団
内丸教会



●東日本大震災被災地支援募金・献品

名古屋ブラザークラブ、沖縄那覇ワイズメンズクラブ、京都トッポスワイズメンズクラブ、京都東稜ワイズメンズクラブ、京都エイブルクラブ、京都キャピタルクラブ、四日市ワイズメンズクラブ、名古屋ワイズメンズクラブ、山崎ワイズメンズクラブ、東海ワイズメンズクラブ、宇都宮ワイズメンズクラブ、宇都宮東ワイズメンズクラブ、和歌山紀の川クラブ、横浜ワイズメンズクラブ、清水弘一

●寄附金

佐藤翔、鶴丹谷三千代、熊谷圭祐、伊藤克見、花田瞳、遠藤昌樹、小山憲彦、原寛、伊藤眞一郎、清水弘一

●維持会費

木田泰之、光永尚生、今野聖子、今野健男、佐藤翔、川坂保宏、鶴丹谷三千代、熊谷圭祐、滝川波子、北田アユ子、押切梓、名古屋恒彦、越前谷洋子、一戸貞文、伊藤克見、魚住英昭、花田瞳、水谷史門、廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、森山日菜乃、森山幹大、遠藤昌樹、小山憲彦、原寛、大関靖二、村上浩、菊地弘生、(株)興和電設、伊藤眞一郎、伊藤みどり、清水弘一、井上修三、井上優子、井上浩太郎、田村治之

感謝

(2015年度
5月31日現在)
順不同・敬称略